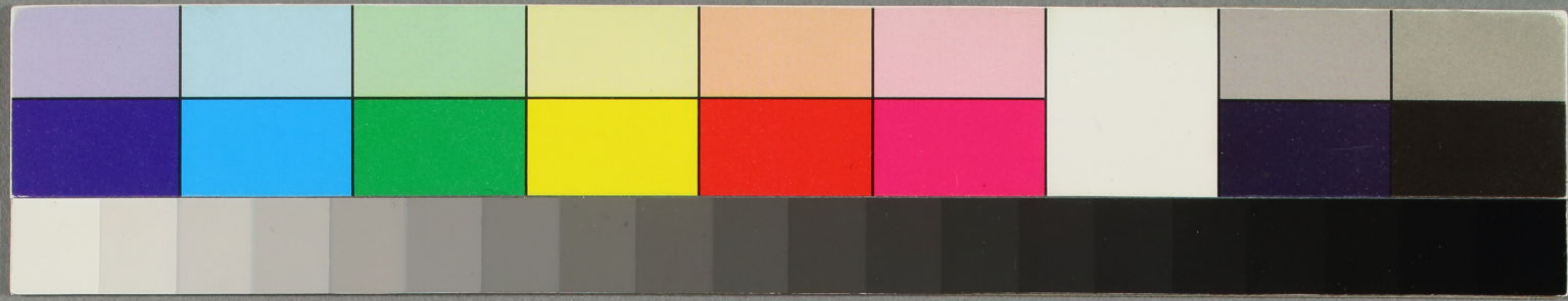


役者評判記

子13
3851
2





役者有難
京

~~多
1.6
8~~

特
子13
3851
2



後者有辨

糸のき月録

藝品定



芝居乃
木戸の

上子七郎
東廣

初巻

ひん
世と
まの

おきく
ちまえ

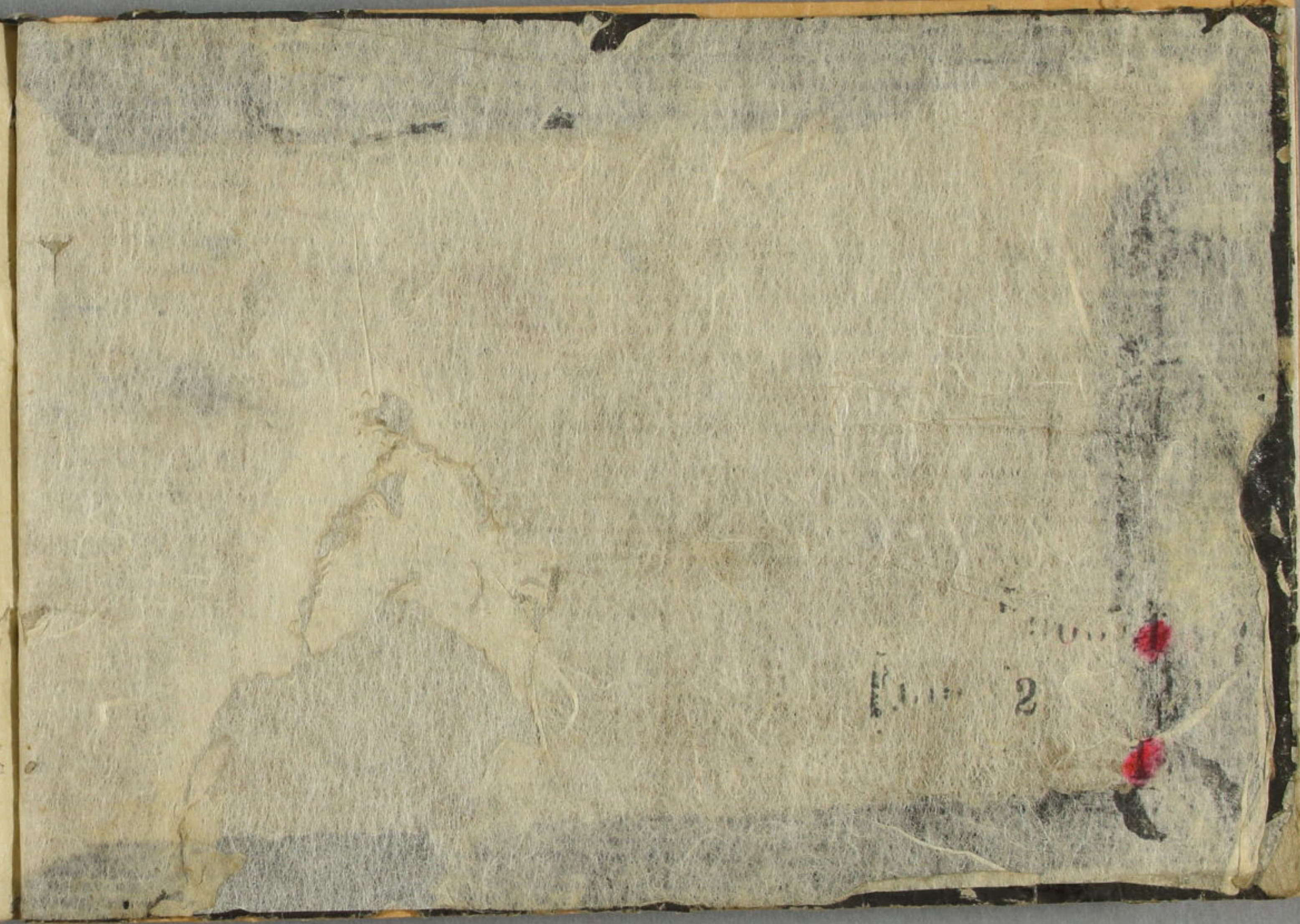
入りの
まへ

目出

一巻が
らんふ

芝居
菜

まの
あつ
の



大で

の

年徳

棚

大立名

下子

汁のお

あ

親の

と

大あ

お

福

西

座

座あ

此

一の

屋

美

実

つ

京伊桑一芝居物役者目録

名代 早番長 座幸芳 伏見は

▲若女形之部

○ 尺立 留也 上 幸丸 の

次上吉 中村 冬来 志希

大浩の 伏見の 幸丸 の 志希

上上吉 佐野川 花 妻

お 上 幸丸 の 志希

上上 姉川 菊 八

お 上 幸丸 の 志希

上上 山下 八 百 花

お 上 幸丸 の 志希

上上 若原 いろは

お 上 幸丸 の 志希

上 中村 春 助

お 上 幸丸 の 志希

● 色子 分

三井 糸 幸 一 沢 村 冬 来 志 希

一 中村菊助トウ 一 中村長之助トウ
 一 三井辰彦トウ 一 岩崎トウ
 一 岩崎 一 中村長之助トウ
 一 清尾乃之助トウ 一 芳沢仁清トウ
 一 芳沢冬彦トウ 一 沢村雄之助トウ
 一 中村長之助トウ 一 尾上長之助トウ
 一 中村十吉トウ 一 岩崎トウ
 一 尾上虎彦トウ 一 沢村の松トウ
 一 山下民彦トウ 一 三井辰彦トウ

▲ 実恩敵役之部

上上吉 岩崎 七又部
トウ 山下次部トウ
 上上 坂田素彦トウ
 上上 尾川時彦トウ
トウ

上 岩崎 俗彦トウ

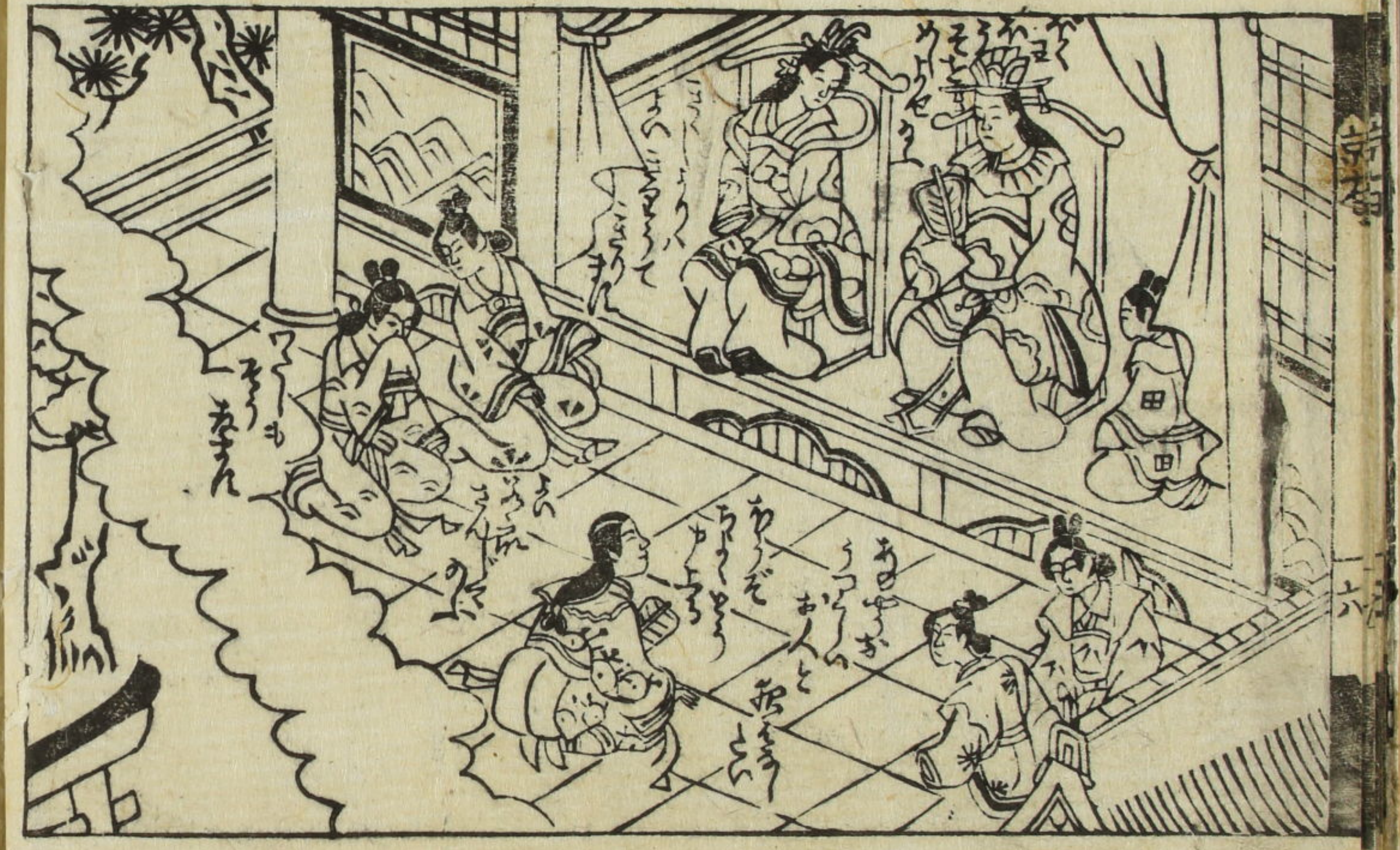
上 中村本彦トウ 一 沢村竹之彦トウ
 上 三井辰彦トウ 一 坂田素彦トウ
 上上吉 立役之部
 上上吉 尾上彰七トウ

上上吉 沢村宗十彦トウ
 上上吉 岩崎 後十彦トウ

上 坂東藤次彦トウ
 上上吉 三井辰彦トウ
 不出トウ 市川辰十彦トウ
 不出トウ 之井他十彦トウ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with capital letters or specific symbols. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with capital letters or specific symbols. The script is dense and difficult to decipher without a key.



Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 15 lines. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'D', followed by several lines of dense, flowing script. The ink is dark, and the parchment shows signs of age and wear. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 15 lines. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'D', followed by several lines of dense, flowing script. The ink is dark, and the parchment shows signs of age and wear. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work.



宗
 得
 乙未年十一月十日
 五枚宛
 〆

十六

十二



宗
 得
 乙未年十一月十日
 五枚宛
 〆

十六

十二

一風及大坂... 中村吉之助

上戸



中村吉之助

Main text block on the right page, containing several lines of handwritten Japanese characters.

上書



上書


十六番

Main text block on the left page, containing several lines of handwritten Japanese characters.

のりし事多し... 長年改定事

上 出市坂東持又布

同旨奉聞... 大徳寺の事

上上言  二 拂大又布

同旨の事... 同旨奉聞... 出市坂東持又布

同旨の事... 同旨奉聞... 出市坂東持又布

白龍寺の入り江の浦の中よりある雲雲の雲
おん引さひさきさきまじりたるをわきまを
ひききききききききききききききききき
ひききききききききききききききききき
ひききききききききききききききききき
ひききききききききききききききききき

己丑月二日より切立言

丹波屋おま 廓時雨諸又較朝

三冊お 芳次巻

二林文帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一尾上杉七 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一尾村宗帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一嵐草帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一坂本帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一嵐七帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一山下帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一坂田帝 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一尾村時荒 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一嵐治荒 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一依の川荒 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一姉川荒 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一山下百荒 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一芳次はは 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一中村おゆ 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一中村おゆ 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一中村おゆ 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

一中村おゆ 古より八段きの役及び四七がくれ
まじりたる甲さきさきさきさきさきさき

四京南側芝居敷設者目録

名代 郡 万 古 文 在 本 嵐 之 江 帝

己酉三月八日ヨリ 信仰記ニフロ三ノ切
赤模様油皮質マ辰 若屋道長四ノ口四ノ切

因幡茶師境内芝居 名代 座 本 へ 七 松 之 古 帝

己酉二月六日ヨリ 天地和合金相極 曰 長 續

▲立役之部

真上吉 木ノ葉書 嵐 白 市 嵐 元

上上吉 奴野平 依野川万吉 嵐 元

上上吉 川ノ葉 尾上段之部 日 元

上上吉 山ノ葉 山下 徳十部 嵐 元

上上吉 中ノ葉 嵐 秀天部 日 元

上上吉 之ノ葉 中村 世 日 元

上上吉 山ノ葉 中村 繁 日 元

上上吉 形ノ葉 嵐 小 七 嵐 元

上上吉 葉ノ葉 嵐 井又部 日 元

▲美無之部

上上吉 四ノ葉 嵐 依世八 嵐 元

▲款役之部

上上吉 仲ノ葉 嵐 依世八 嵐 元

上上吉 山ノ葉 市川 万吉 嵐 元

上上吉 信ノ葉 市川 九十部 日 元

上上吉 辰ノ葉 龜谷 仲秀 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 之林 松之助 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 大和吉之八 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 沢村 辰吉 日 元

上上吉 辰ノ葉 嵐 徳吉 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 之林 榮秀 日 元

上上吉 辰ノ葉 中村 吉秀 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 若女部 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 嵐 菊次郎 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 松山 小源吉 嵐 元

上上吉 辰ノ葉 岩井 八十七 日 元

上上吉 辰ノ葉 嵐 小 日 元

上上吉 出雲 宍 嘉吉 日左

上上吉 出雲 宍 松 日左

上上吉 出雲 中村 嘉次郎 日左

上上吉 出雲 中村 虎七 日左

上上吉 出雲 尾上 宗秀 日左

上上吉 出雲 小野川 宗松 日左

上上吉 出雲 八重 日左

上上吉 出雲 三浦 日左

上上吉 出雲 玉市 日左

功上吉 出雲 山神川 英治 日左

上上吉 出雲 山神川 英治 日左

安永二年 正月吉日



京三味土河
正本 尾上 宗松
宗松 尾上 宗松
宗松 尾上 宗松
宗松 尾上 宗松

役者有經

役者有紙

藝品定

江戸の老目録

芝居藝品

よりきで

ゆきふ

四十二の

年越

年と

何くとも

金銀のちま子

飯の月

役者ハ

自給のり

いつとも

いふ帽

まりを

法蓮どのの

かき

そのの

玉足

いつとも

今れなきが

上白蔵

立役ハ家老小

うしろ

かきまわり

鏡

やまがり

あつと

新給子の

なと

たぐく歌

あ

上上吉の

く

かみん

あ

目出綱

あ

顔ん世

あ

あ

江戸の芝居者同録

さうい

中村勘三郎

ふま

市村羽左衛門

こび

栗田勘次郎

▲立役之部

○見立歌の流小春丸のじ

極上吉

市川海老蔵

中村

上上吉

市川團十郎

日

上上吉

松本幸四郎

日

上上吉

坂田守又

市村

上上吉

大谷廣治

中村

上上吉

市川八百蔵

男女

あ

上上吉 中村十彦 日産

けさハ熱く魚との 合規文

上上吉 坂東之信 日産

美のハあぢいぬ 信地甚

上上吉 坂東又吉 中村彦

新見世ハ川でも 志徳の徳

上上吉 市川園彦 市村彦

師匠の名とあびる 百尺橋

上上吉 益屋又九郎 中村彦

膝くとの出世ハ 津戸の徳

上上 坂東三八 市村彦

ひつげ師匠リル 異香薫

上中村長十郎 上市川條六郎中

上市川春彦 上市坂東吉彦市

上市川園彦 市中

▲美魚之部

上上吉 中村伴彦 中村彦

澤村ハ四方コウキ 美魚の珠

上上吉 中村三南 市村彦

久くで高産立上 花の香

上上吉 大谷廣右 素田彦

魚の仕うらへすり 比敵嵐

上上吉 大谷友右 中村彦

魚ふり 雙彦風

上上吉 中村助兵衛 市村彦

坂西よこもすの 野山

上上吉 尾上松助 素田彦

石橋の立ハ うぐ柳子

上上吉 富沢辰十郎 市村彦

けさハ熱く あく川

上上吉 沢村長十郎 素田彦

男がりのハ 田面鏡

上上 松本小次郎 市村彦

うまうり 魚の香が 上林苑

上上 沢村信又 素田彦

膝の徳 今に徳との子 勢が屋

▲ 若女形之部

極上吉 中村富十郎 泰田彦

之介の若女形のかしらふりて女冠

上上吉 山下金作 日彦

地蔵の仕度さうふあふぬ花月楼

上上吉 嵐 之次郎 市村彦

うらうら振袖姿の十八娘

上上吉 芳沢清之助 中村彦

ちとやうふさもちもちの揚貴妃

上上吉 岩井中太郎 日彦

ひびきの岩井様まつての舞蝶

上上吉 中村里好 日彦

けいせいのうらうらとあまの青樓曲

上上吉 尾上辰彦 市村彦

まろのうらうらとハ 柳湖の枕

上上吉 中村世塩 泰田彦

まの若女とあやしい 巫山の雪

上上吉 市村彦 玉芝容

上上吉 中村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

上上吉 市村彦 市村彦

▲ 若女形之部

上上 市川門も助 中村貞

女中が皆あそびます

上上 市川市松 日産

君とあそぶ市川乃と

上上 坂東素三郎 市村貞

後くこひひこと

上上 市川寅 中村貞

あそぶ市川乃

上上 坂田素三郎 市村貞

市川乃

上市 市川平次 市村貞

▲中村貞子役も分

上上 市川高藤 市村貞

上上 中村七三郎 市村貞

大谷若次 市村貞

芳次 市村貞

市川傳次 市村貞

▲市川貞子役も分

あそび 市川貞

あそび 市川貞

中村伝次 市川貞

▲藤田貞子役も分

山下正次 市川貞

多屋又次 市川貞

岩井松之介

▲中村貞子役も分

市川貞 市川貞

山下松之介 市川貞

中村貞松 市川貞

中村貞吉 市川貞

▲市川貞子役も分

大谷伝次 市川貞

龜谷若吉 市川貞

沢村貞松 市川貞

あそび 市川貞

沢村貞松 市川貞

▲ 奥田屋多子
山下金右衛門 一 中村徳之助
中村より松 一 中村多子
▲ 沢尻部

市川久 藤 中村
市川豊次郎 日
佐川新九郎 市村
山中平一 日
山下里 大 奥田

▲ 志丈之部

中村勲之節
中村傳九郎
市村頼友
市村龜彦

上上吉 中村傳九郎
大上吉 市村頼友
上上吉 市村龜彦

▲ 藤之部
中村勲之節
中村傳九郎
市村頼友
市村龜彦

▲ 藤之部
中村勲之節
中村傳九郎
市村頼友
市村龜彦

▲ 藤之部
中村勲之節
中村傳九郎
市村頼友
市村龜彦

▲ 藤之部
中村勲之節
中村傳九郎
市村頼友
市村龜彦

▲ 相言他者之部

中村彦
奥野源次
河竹新七
仲 森 市
奥野景次

市村彦
中村重介
中村清九郎

中村重介
中村清九郎

塚越菜 陽
 増山金 八
 笠縫專 助
 山田平 三
 沢井住 秀
 長谷川前 吉

表田彦

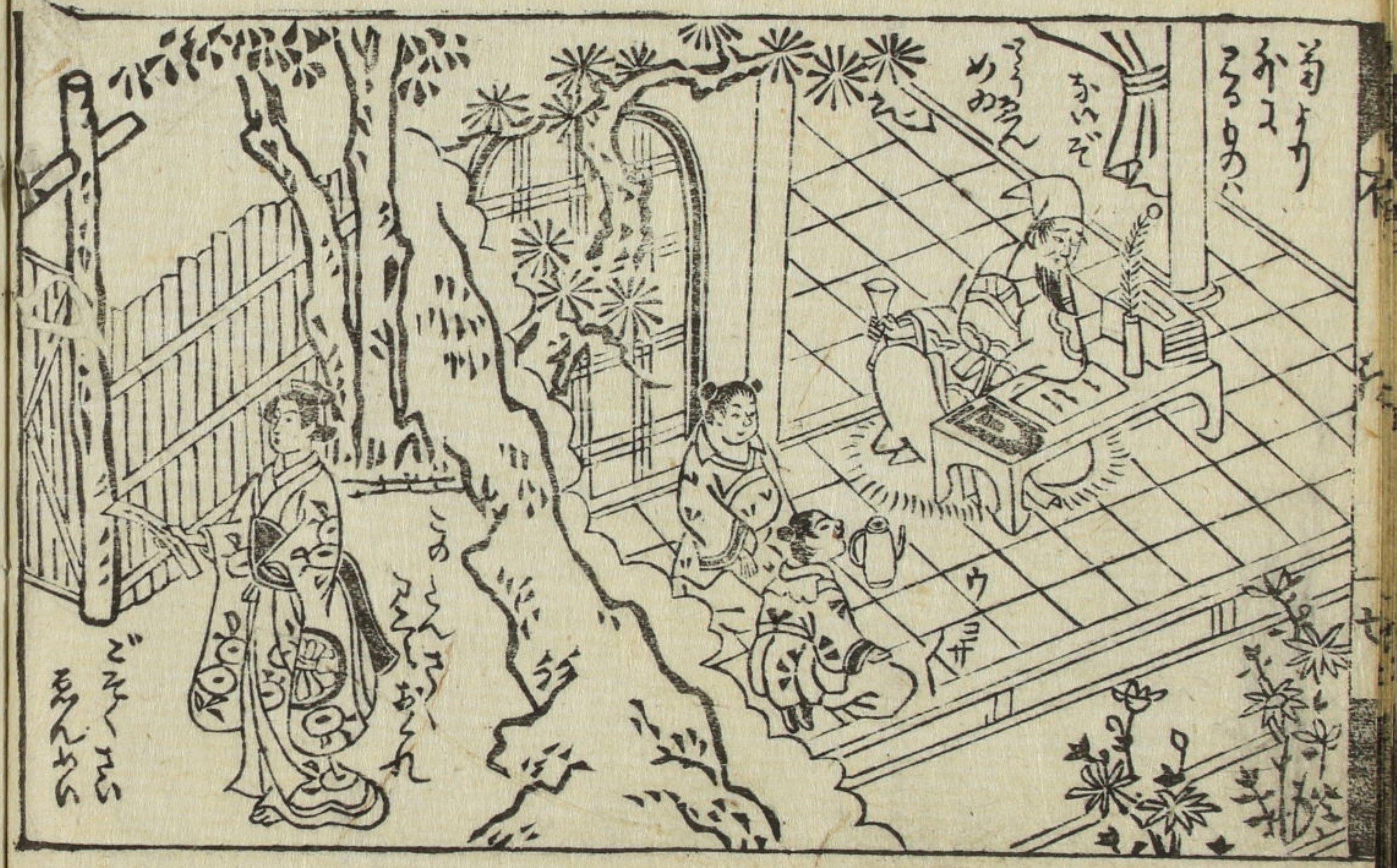
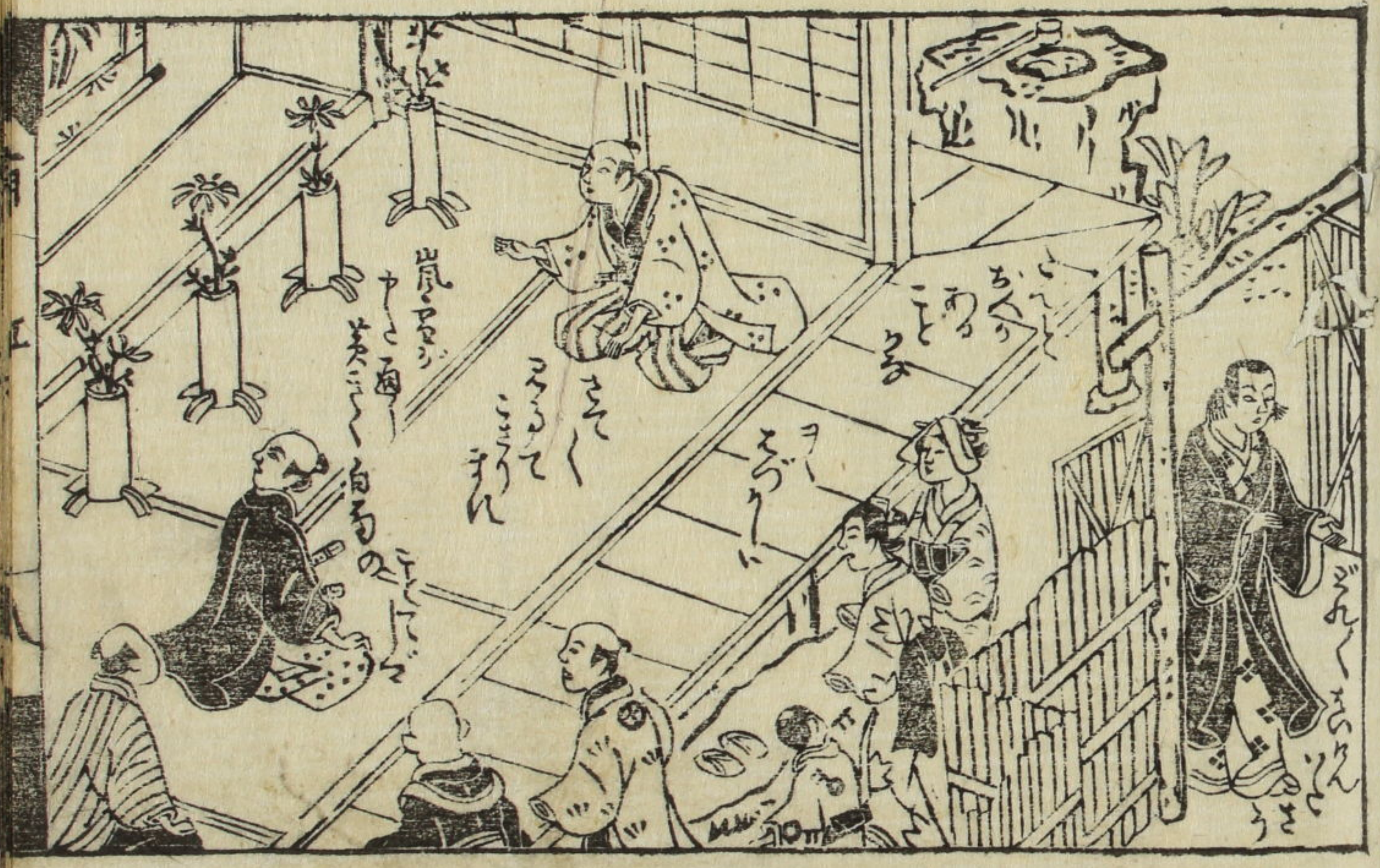
▲市村彦不出分

江戸 着敷 之 妻 友 彦
 大坂 日 徹 門 萬 之 布
 京 日 中 村 八 重 八
 大坂 日 徹 門 七 彦
 日 立 復 嵐 三 日 布
 日 鼓 復 市 山 傳 天 布

以上

○自由な業の品物

水陸州々の花宅と云者甚番未晋其陶器
 と云毛唐人の業事と云ふの陶器を云
 云と云は其の業事と云ふの陶器を云
 此の陶器は其の業事と云ふの陶器を云
 雅と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 菊香花の業事と云ふの陶器を云
 淡谷と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 下と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 平と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 六と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 七と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 八と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 九と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十一と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十二と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十三と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十四と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十五と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十六と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十七と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十八と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 十九と云ふは其の業事と云ふの陶器を云
 二十と云ふは其の業事と云ふの陶器を云



▲ 豆役之部

極上言回 市川海老茶 中村

及之 鳳凰城 及之 皇宮 及之 御殿 及之 御所 及之 御用 及之 御座

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

と云ふは海老茶の御用御座と云ふ

此の書は... (Faint handwritten text at the top of the page)

上上吉 \oplus 大吉 廣治 中村

此の書は... (Main handwritten text on the right page)

此の書は... (Faint handwritten text at the top of the left page)

上上吉 \oplus 市川八日流 本田

此の書は... (Main handwritten text on the left page)

上上吉 \oplus 中村十流 本田

此の書は... (Faint handwritten text at the bottom of the left page)

中七の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

上上吉 **坂東三津入部** 中村

此の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

上上吉 **山本坂東又右部** 中村

此の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

上上吉 **市川左衛門** 中村

此の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

上上吉 **山本坂東又右部** 中村

此の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

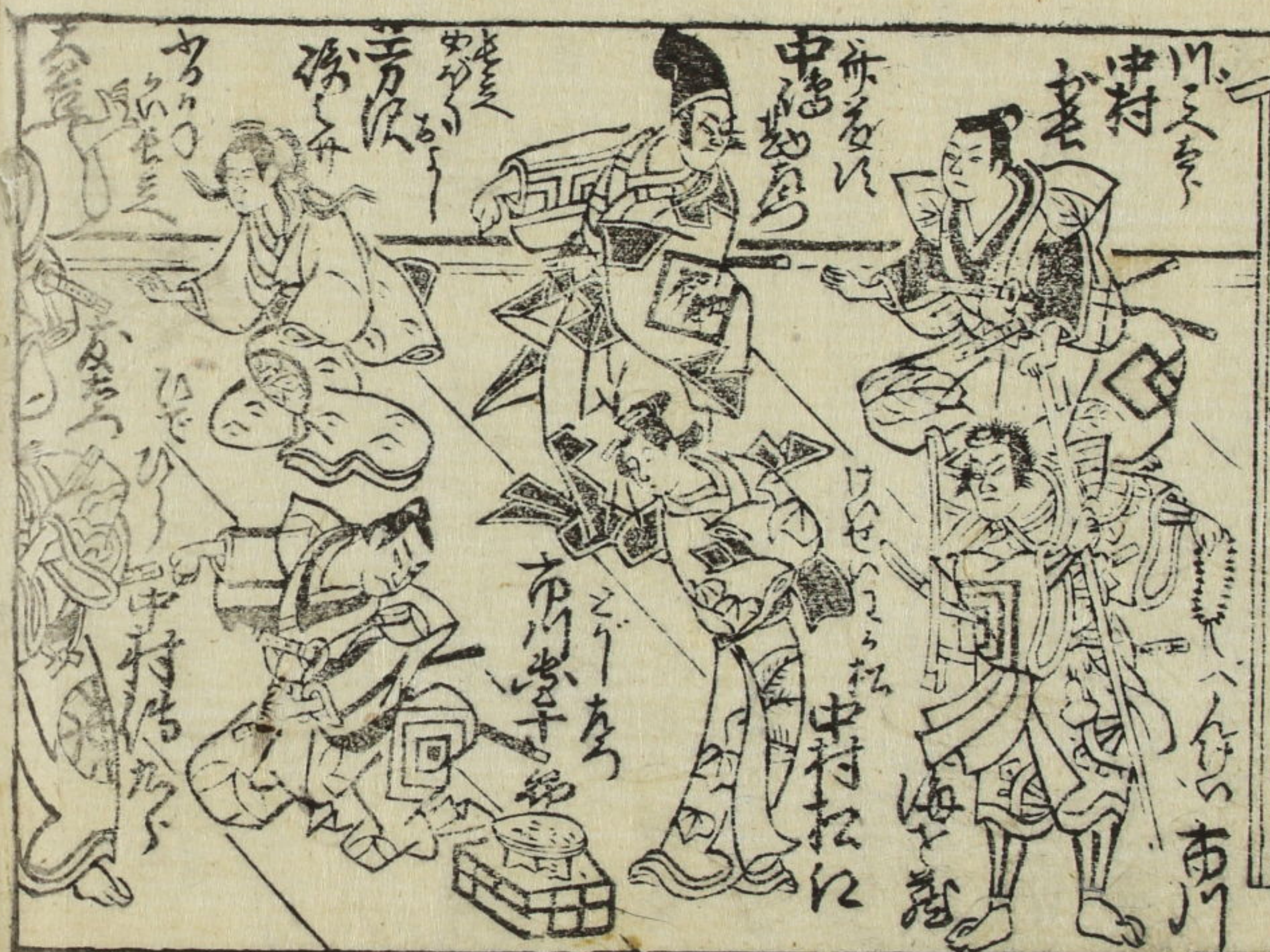
上上吉 **山本坂東又右部** 中村

此の字を以て名を賜ふ。此の字とては、
まを不法を名とす。此の字を以て、
まを不法を名とす。此の字を以て、

▲ 実徳之部

上上吉 **中村仲茂** 中村

御前勸進帳
中村在



こののふの物... 十五
けき... 十五
... 十五

上上言... 市村

上上言... 市村

上上言... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

上上... 市村

是也... 後高... 中村

上上 回 市川 綱 藤 中村

上上 回 市川 統 志 藤 中村

上上 中 清 之 南 苑 春 南

上上 松 本 大 七 日 元

上上 市川 綱 藤 中村

上上 日 元

上上 日 元

上上 中 村

上上 春 南

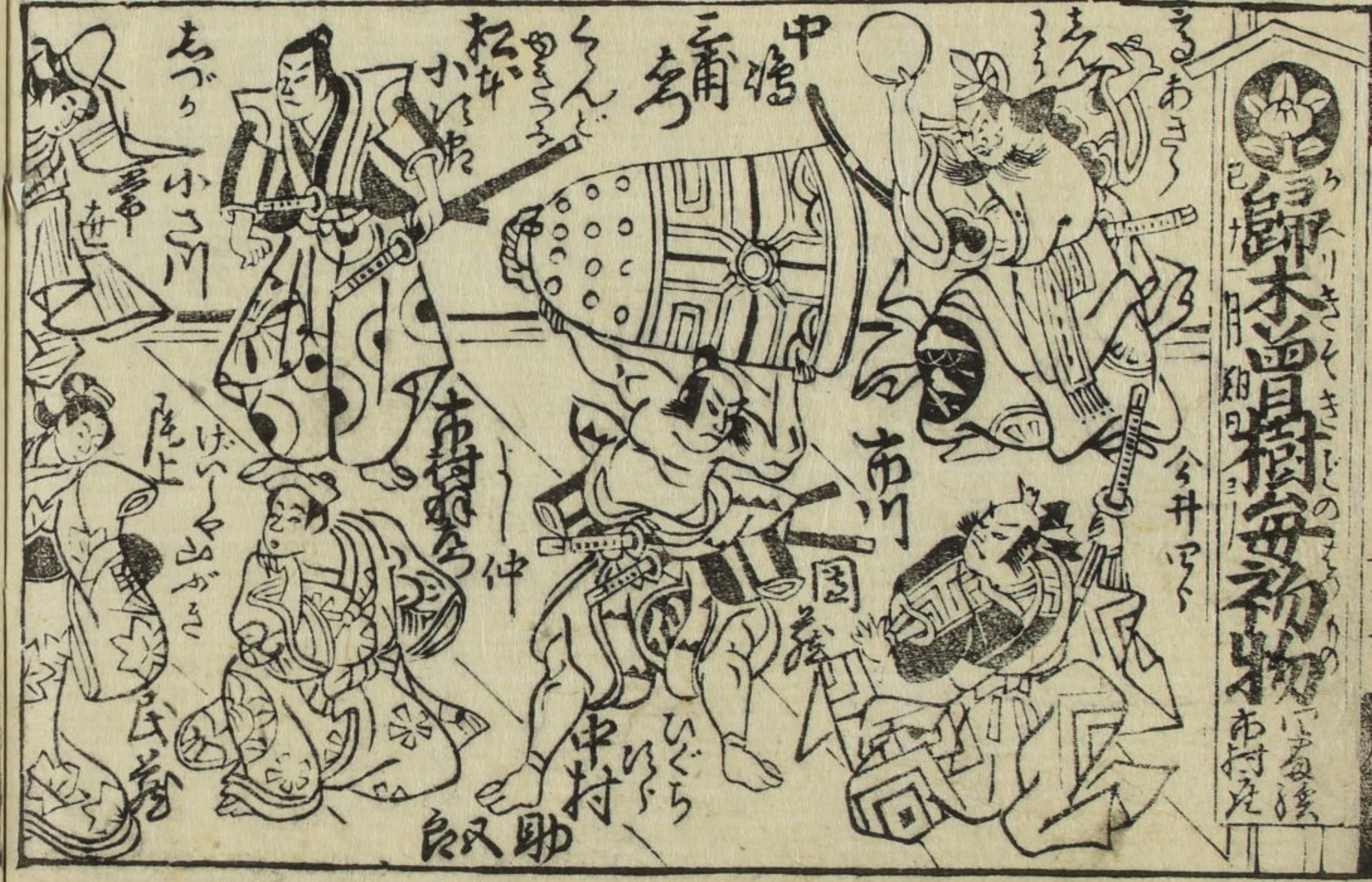
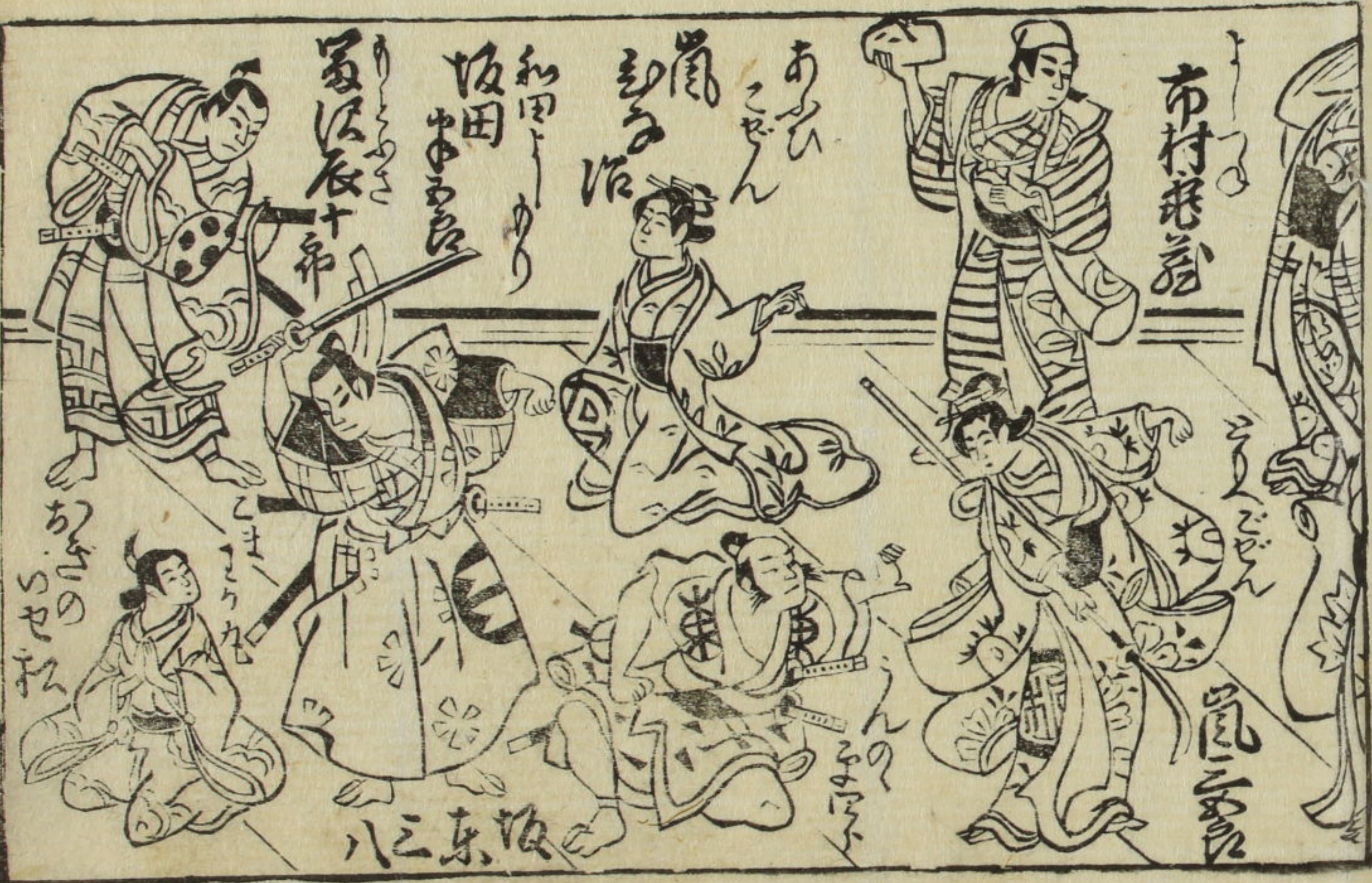
上上 日 元

上上 中 村

乃介形之部

上上 小 虎 高 八 中村

...


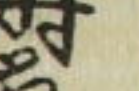
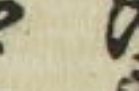


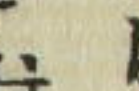

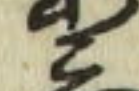
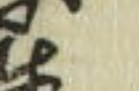
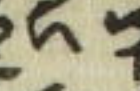
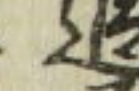
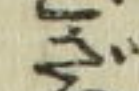
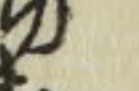
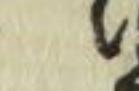
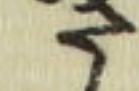
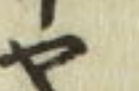



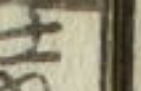
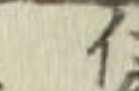
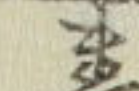

歸木曾樹舟初物
市村港

船のりまはむしあはら場さるの候し

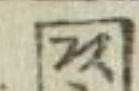

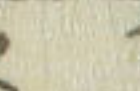
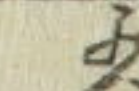


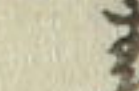
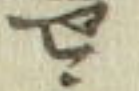

▲ 着女形之部

極上吉  中村百十郎 表南



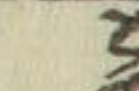
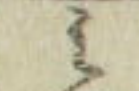


 純白の地盤に花のまきまきほりこし
 附男の男形をもちたる 其のまきまきほりこし
 手は袖のまきまきほりこし 
 膝は  膝のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし

仕立のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし

上上吉  山下令化 表南


 純白の地盤に花のまきまきほりこし
 附男の男形をもちたる 其のまきまきほりこし
 手は袖のまきまきほりこし 
 膝は  膝のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし

上上吉  着 沢村之助 中村


 純白の地盤に花のまきまきほりこし
 附男の男形をもちたる 其のまきまきほりこし
 手は袖のまきまきほりこし 
 膝は  膝のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし
 手は  手のまきまきほりこし

上上吉  中村のしや 本田


四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田


上上吉  中村のしや 本田


四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田


四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

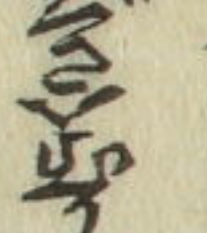
上上吉  中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

上上吉  中村のしや 本田

四日 上上吉 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田 中村のしや 本田

抄く目録の余りなきに...
 ...
 ...
 ...

▲若丸形く部

上上書 ① 市川門之助 出典

上上書 ② 佐世川市松 日記

図 坂屋町車、若丸形の意、市川の意、
 ...
 ...

上上書 ③ 市川 家 義 中村

上上書 ④ 坂本 素之助 素内元

上上書 ⑤ 中村 傳九郎

上上書 ⑥ 中村 勘三郎

上上書 ⑦ 中村 傳九郎

上上書 ⑧ 中村 傳九郎

上上書 ⑨ 中村 傳九郎

上上書 ⑩ 中村 傳九郎

上上書 ⑪ 中村 傳九郎

上上書 ⑫ 中村 傳九郎

上上書 ⑬ 中村 傳九郎

上上書 ⑭ 中村 傳九郎

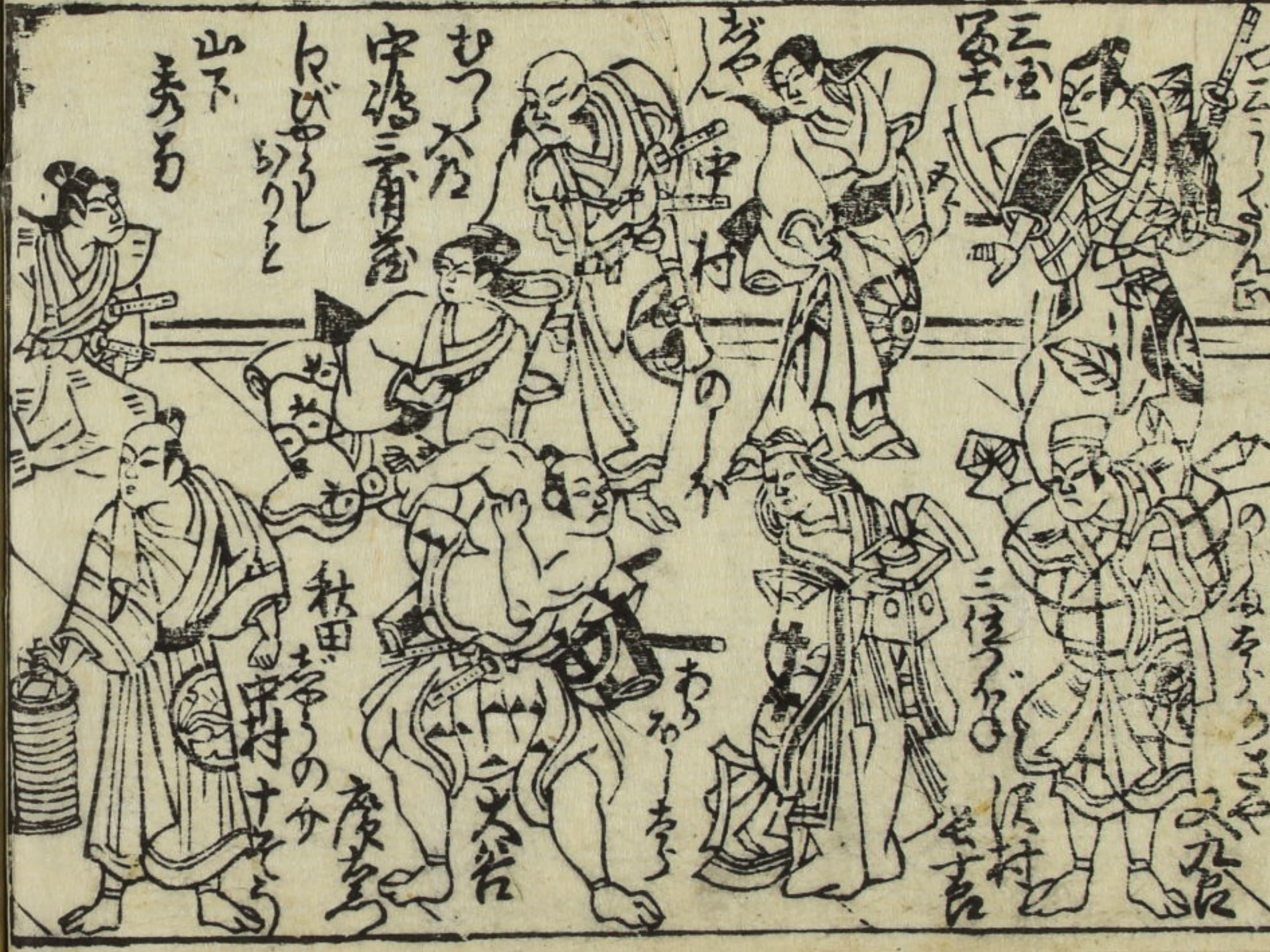
上上書 ⑮ 中村 傳九郎

上上書 ⑯ 中村 傳九郎

上上書 ⑰ 中村 傳九郎

上上書 ⑱ 中村 傳九郎

初雪世風
秋田 庄



の秀ひやうほうは行ひ。先皇居へ入中を成す

大上吉  市村羽反鳥


○市村ヤリくゆひのうしと藤橋へ入中を成す
こゝに皇居遷九やとさるゝにんかへく ○市村羽反鳥
このやうなやうな言ふもむねとさるゝの元やま ○市村羽反鳥
きくはるる言ふもむねとさるゝの元やま ○市村羽反鳥
けふも位もさるゝの元やま ○市村羽反鳥
後本者も仲より下他おひきま ○市村羽反鳥
ゆくまゝの言ふもむねとさるゝの元やま ○市村羽反鳥
の言ふもむねとさるゝの元やま ○市村羽反鳥
梅子もさるゝの元やま ○市村羽反鳥

上上吉  市村無義

○市村無義

義  東田助泳

上上吉  東田又次郎

○市村無義
人との事とさるゝの元やま ○市村無義
系出系一や下中 ○市村無義
さるゝの言ふもむねとさるゝの元やま ○市村無義
抄巻  中村少長 市村

安永三年

午寅月

東三京市

西本庄九条東板

八景寺八景寺板

後考五龍
大坂

役者有難

藝品定

大坂の老目録

むしや

女郎の歌

つら

いづれごと

芝居の

藝ハ

門口

梅の
花かけ

よいま

女中ハ

揚屋ガ

おひと
つり綱

玉で

ひつと

庭

お世の扇と

寛

おとよ

情

情

高子

年切の麻

ゆき

一

親

しらべ

くまの

ありね

雑

他

け

やつ

み

後

薙

日乃出

粹

お

あ

六

れ

う

大

葉

大坂の松尾三芝居也役者目録

名代大坂を有る者 彦本小川吉右衛門

名代塩屋九郎重 彦本嵐松法郎

極上吉 稀人

尾上菊又郎 嵐彦

▲立役之部

○ 又立役之部

真上吉 中山文七 小川

上吉 後川八 荒 嵐彦

上吉 小川吉右衛門 梅の勢

上吉 小川吉右衛門 信牡丹

上吉 嵐彦 嵐彦

上吉 中山文七 小川

上吉 後川八 荒 嵐彦

上吉 小川吉右衛門 信牡丹

上吉 中山文七 小川

上吉 後川八 荒 嵐彦

上上吉

嵐 文又布 小川産

上上吉

後川柳 茶 嵐産 あまの八月まきく見ゆ火様の吉袋

上上

市山脚又布 日産

上上吉

嵐 七三布 日産

上上

市川袋 茶 小川産

上上

嵐 三十布 日産

上上

坂东市 茶 嵐産 茶樹の親りつて小川産

▲ 実悪之部

次上吉

中村親右衛門 嵐産 産地

上上吉

濱尾為十布 小川産

上上吉

坂东崇又布 嵐産 産地

▲ 敵役之部

上上吉

市川宗三布 嵐産 産地

上上吉

中村治布三 小川産 引さる新をもあらしりて捲廻

上上

中村新又布 嵐産 産地

上上

三科字 八 小川産 ほのぬわいふのついで姑のぬい

上中村友十布 嵐上上三科傳茶小 い年お八社册よひさしそま此切に

上苦次十三日 上市川松又布日

上中村治布日 上中村吉次日
上中村治又布日 上嵐又六八日
上濱尾喜又布日 上嵐松十布日

上中川天幕片上中村今虎小
上市川文秀小正山下东九幕日
上大吉片十幕日

▲ 觀仁形之部

上上 後川十幕吉泉 小川片
上上 後川全十幕片片
上上 後川全十幕片片
上上 後川全十幕片片

▲ 花車形之部

上 冬松才三幕 小川片
上 坂东久六幕 片片
上 給仕いさるふる各幕の福片

▲ 美女形之部

上上吉 嵐 雛 物 片片
上上吉 向月公造よりそそき後め吉吉
上上吉 沢村金右幕 小川片
上上吉 出子今一とが貴味の根片

上上吉 師川大 吉 片片
上上吉 上上吉 上上吉 上上吉

上上吉 花桐片吉 小川片
ニのけ八幕あうの小利吉口徳の福

上上吉 尾上条 助 片片
中村玉 片 小川片

上上 中村玉 片 小川片
平四八のりろと見せて怪は野く

上上 二枚徳泥片 片片
葉の梳八齒あうのよこをの吉吉

上上 生瀧柏 本 片片
初秋八幕あうのよこをの吉吉

上上 山科志 吉 小川片
二秋目いひのめの中を吉吉

上上 小川千 菊 片片
市川吉吉幕 片片

上上 中村吉 菊 小川片
市川吉 代 片片

上上 市山 吉 片片
二秋目いひのめの中を吉吉

二秋目いひのめの中を吉吉

▲娘役之部

上 嵐 松次郎 舟下

上 生傳人全 芳 小川

お下業いふ事思ふてらんうらむ

▲小川之屋敷子之分

一 小川幼翁 舟下一中 辰次郎 舟下

一 中 山 神 介 舟下一中 山崎 舟下

一 中 村 孝 吉 舟下一中 松次郎 舟下

一 小 川 安 治 郎 舟下一中 善治郎 舟下

▲嵐之屋敷子之分

一 中 村 辰 介 舟下一中 中村 舟下

一 嵐 秀 介 舟下一中 中村 舟下

一 中 村 松 介 舟下一中 芳三 舟下

一 中 村 孝 介 舟下一中

○真之屋敷

極上吉 善取 芳沢 舟下 中 舟下 小川 舟下

是の屋敷をいふ事幸秋樂

大坂中芝居世役者同縁

乃松坊本芝居舟中村直次郎

日 西之屋舟中村直次郎

坊の西芝居舟中村直次郎

唐摩社門芝居舟山下京右馬

稻為社門芝居舟本松本團十郎

所長社門芝居舟本嵐 芳三

▲立役実惣款役之部

○凡立大坂坊をいふ事舟下

十夜盤松 深川 舟下 舟下

京 坊 中 山 楠 芳 舟下

天 海 坊 松 本 十 郎 舟下

天 津 坊 谷 村 楠 八 舟下

雅 波 坊 嵐 佐 世 八 舟下

高 藤 坊 中 山 十 郎 舟下

本 町 坊 善 本 十 郎 舟下

農 人 坊 市 井 門 三 郎 舟下

長 崎 坊 沢 村 芳 吉 舟下

日本格 中村岩 秀 茂 茂

右 十格日位 竹中徳八 茂 茂

大江格 山下 茂 茂

田藁格 茂 茂

玉江格 茂 茂

取津格 茂 茂

安海格 茂 茂

芳分格 茂 茂

右 七格日位 茂 茂

梅極本格 茂 茂

波屋格 茂 茂

肥後格 茂 茂

筑前格 茂 茂

常安格 茂 茂

越中格 茂 茂

淡路格 茂 茂

今格 山下 茂 茂

公祇格 茂 茂

新町格 茂 茂

梅格 茂 茂

緑格 茂 茂

赤山格 茂 茂

塩子格 茂 茂

大黒格 茂 茂

山鹿格 茂 茂

九条格 茂 茂

高倉格 茂 茂

瓶格 茂 茂

板倉格 茂 茂

長谷格 茂 茂

三休格 茂 茂

佐倉格 茂 茂

栗格 茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

茂 茂

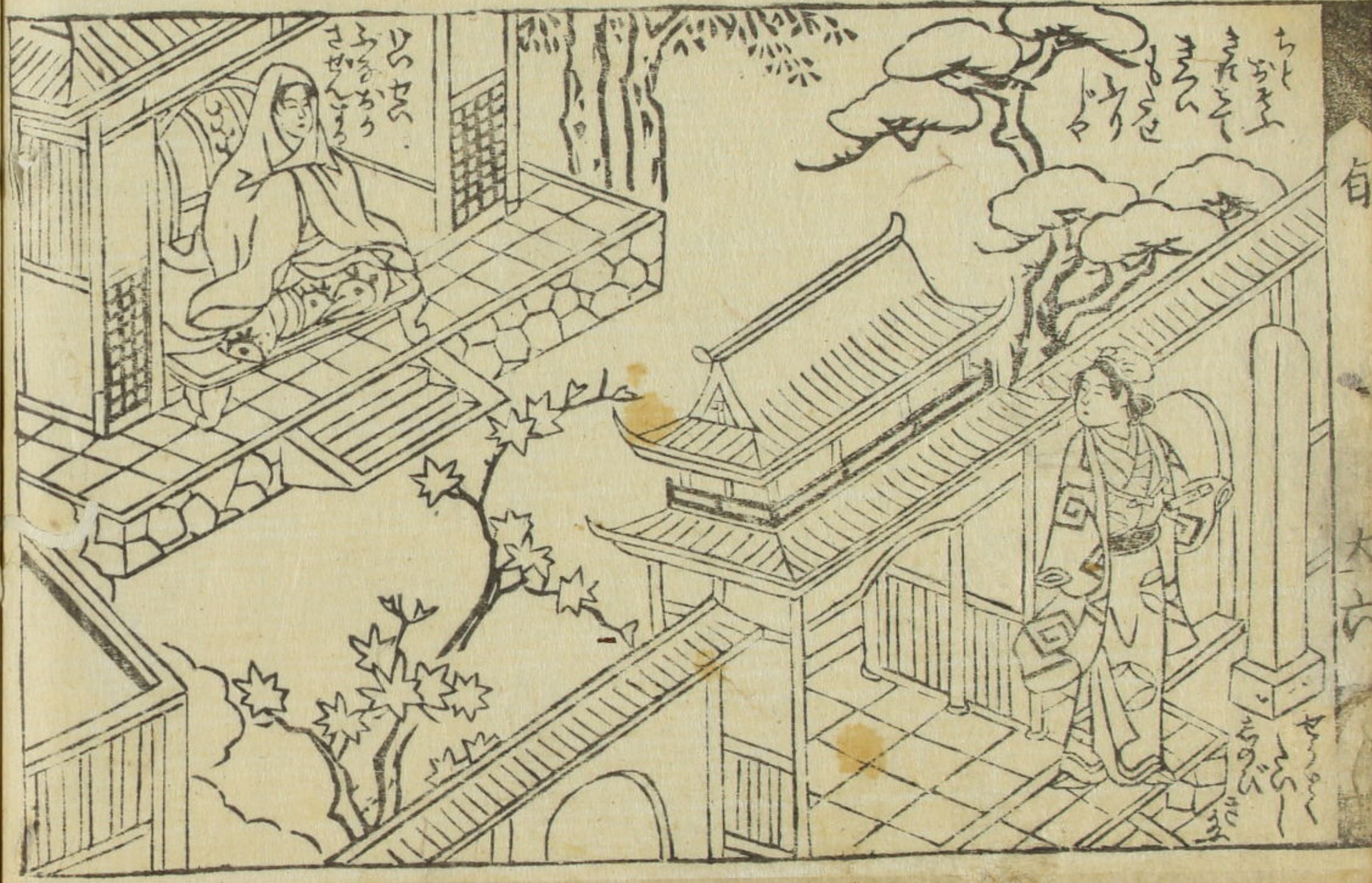
茂 茂

茂 茂

茂 茂

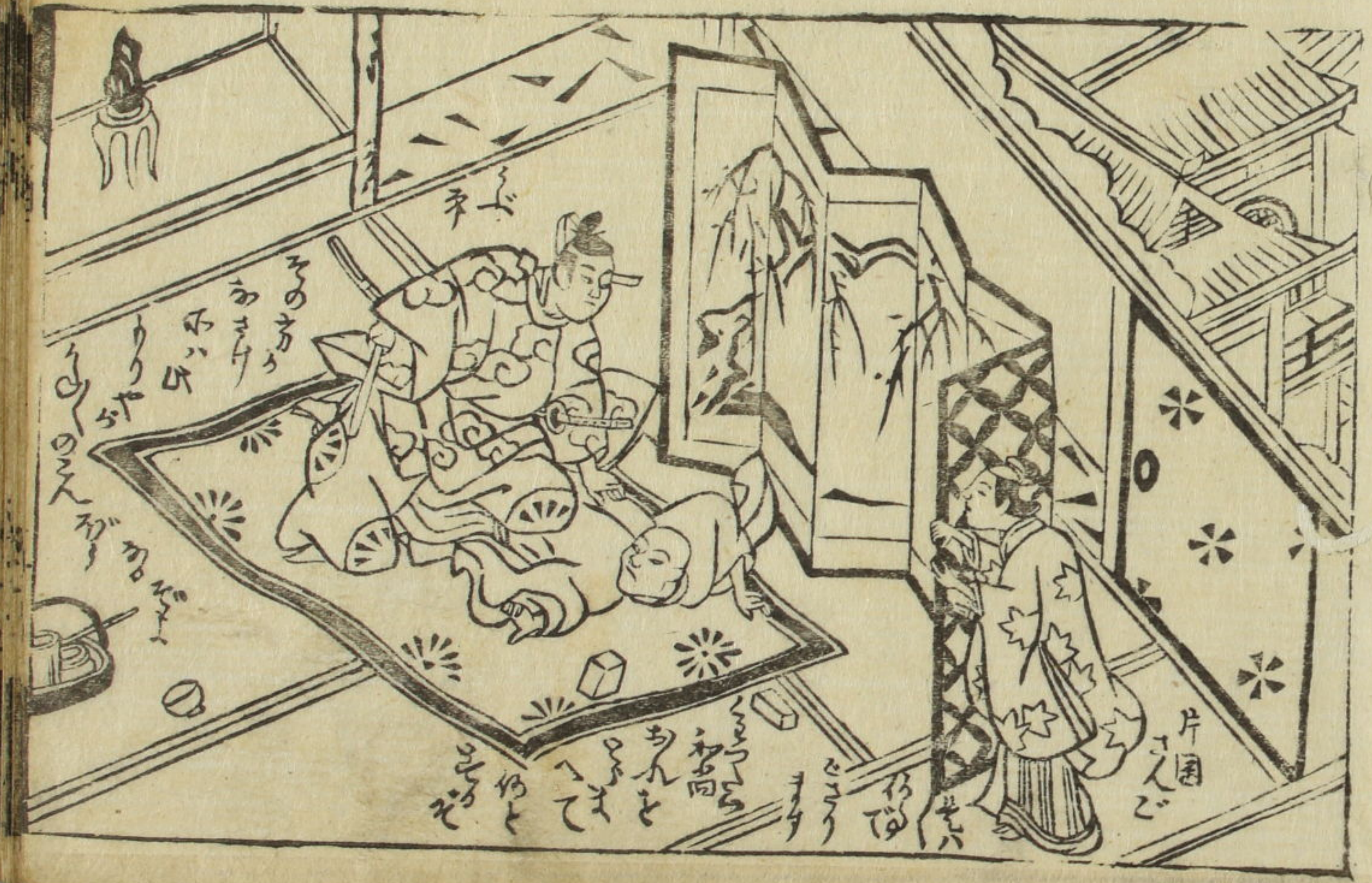
茂 茂

茂 茂



旬

六



○用口

[百] 尾上菊之助と申す者ありて上守に父
 作の事始むるに、豊後守の命を以てせしむ所
 みて、赤松家の出初と稱して、元々其の母
 となして、豊後守の冬々、後下、母を同一年と初
 海老谷と曰ふ者、同一年初に、梅道曰く、
 曰く、同守に秘せん、上守言を、至三申、
 本年、月本村を立返の初、所を、上守言
 所、元も、同守に、母を、言ひ、
 赤松家の出初、赤松家の二返と、
 して、甚き事、山、おれ、
 其年、大上吉と、今、子、
 本年、初、
 白子、
 物、

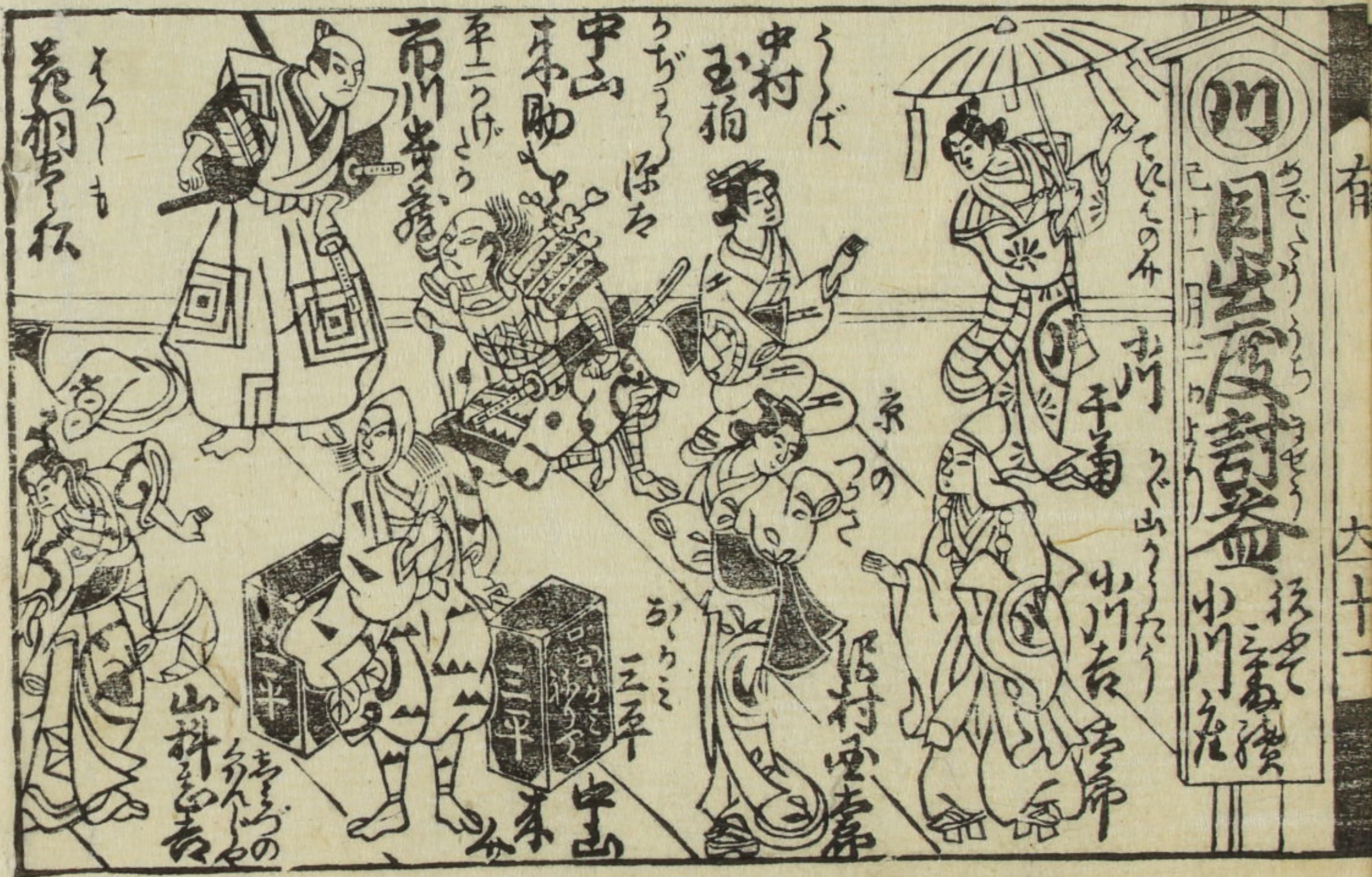
といふ事、
 が、
 伏の、
 と、
 海、
 例、
 を、
 る、
 く、
 行、



中一 又切者
 中二 ころに本男

あつたにぞ **見ゆ** さればこそあまも高しとせり 故
 人をもよひねとせり **中絶** 去の **後** 故 一ツ
 西で **時代** 世情又 **口** 上 **方** 更 **に** 仕 **振** を **取** 付 **記**
 云 **也** 出 **て** 方 **が** ね **か** なる **事** 扱 **を** ね **ら** 味 **を** 参
 法 **と** 方 **の** 内 **別** 條 **一** 事 **あ** る **に** せ **り** 進 **め** 小
 而 **も** 我 **と** 人 **の** 性 **を** 女 **か** る **肝** と **言** へ **り** 故 **也**
 後 **て** 女 **を** 養 **育** を **て** ね **死** する **と** 世 **を** 教 **養**
 こそ **よ** こそ **人** の **養** 育 **の** 事 **は** 後 **に** 始 **後** 故 **と** せ
 る **事** 也 **と** 通 **し** ぬ **事** 也 **と** 西 **で** 味 **を** 治 **す** 事 **を**
 治 **す** 事 **を** 看 **る** 事 **を** 治 **す** 事 **と** 心 **を** 治 **す** 事 **と** せ
 る **事** 也 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** け **り** なる **事** 也 **と**
 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 故 **と** 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 合 **ひ** 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 是 **れ** 人 **の** 性 **を** 入 **る** 事 **と** 勿 **論** 也 **と** せ **り** 故 **也**

あつたにぞ **見ゆ** さればこそあまも高しとせり 故
 人をもよひねとせり **中絶** 去の **後** 故 一ツ
 西で **時代** 世情又 **口** 上 **方** 更 **に** 仕 **振** を **取** 付 **記**
 云 **也** 出 **て** 方 **が** ね **か** なる **事** 扱 **を** ね **ら** 味 **を** 参
 法 **と** 方 **の** 内 **別** 條 **一** 事 **あ** る **に** せ **り** 進 **め** 小
 而 **も** 我 **と** 人 **の** 性 **を** 女 **か** る **肝** と **言** へ **り** 故 **也**
 後 **て** 女 **を** 養 **育** を **て** ね **死** する **と** 世 **を** 教 **養**
 こそ **よ** こそ **人** の **養** 育 **の** 事 **は** 後 **に** 始 **後** 故 **と** せ
 る **事** 也 **と** 通 **し** ぬ **事** 也 **と** 西 **で** 味 **を** 治 **す** 事 **を**
 治 **す** 事 **を** 看 **る** 事 **を** 治 **す** 事 **と** 心 **を** 治 **す** 事 **と** せ
 る **事** 也 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** け **り** なる **事** 也 **と**
 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 故 **と** 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 合 **ひ** 申 **す** 事 **と** 治 **す** 事 **を** 治 **す** 事 **は** 治 **す** 事 **と** せ **り**
 是 **れ** 人 **の** 性 **を** 入 **る** 事 **と** 勿 **論** 也 **と** せ **り** 故 **也**



小名合て来るがう。道中もなむは内身はじと
 然れども、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 切たひなのみと、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 出て居びの老女大付て、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 已路り、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 を切て、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 のおし、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 のし、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 は、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 出て、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 是れ、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 り、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 餘の、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 中、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)
 是れ、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

か、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

天、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

と、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

ど、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

と、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

二、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

敷、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

ある、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

と、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

お、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

ある、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

な、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)


どの、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

ある、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

か、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)と云ふは、なむは(のち)

若後ひを懐くよはせんと進うつやを
 かさがさくそ夫面をよてきんとする
 平山がたれし二つの中は^{おの}おのが^{おの}
 返し^{おの}おのの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 へあつたそとと女房あさがかりるを
 よせよ平山がたれせんとするはわら
 わりこ^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 こ^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 積子と見せるとおの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 平山おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 きれつと平山おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 女で^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 した^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 女房おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 女房おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}

尺抄のけをかき集りませしと

上上吉  後川八彦 凡名

^{尺抄}例の天坂の^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ことおの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 のよの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 とおの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ようおの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 けの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ち^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 たり^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 て^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ち^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ち^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ち^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}
 ち^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}おの^{おの}

をいふて、夫をくわぶれば、はをい進見
 已に夫の申さくは、う源かく合まは、う源の
 切、う源の田原を、う源と名を出て、う源の
 中、う源のうら、う源とく、う源をを、う源と
 しては、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 く、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 さがた、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の

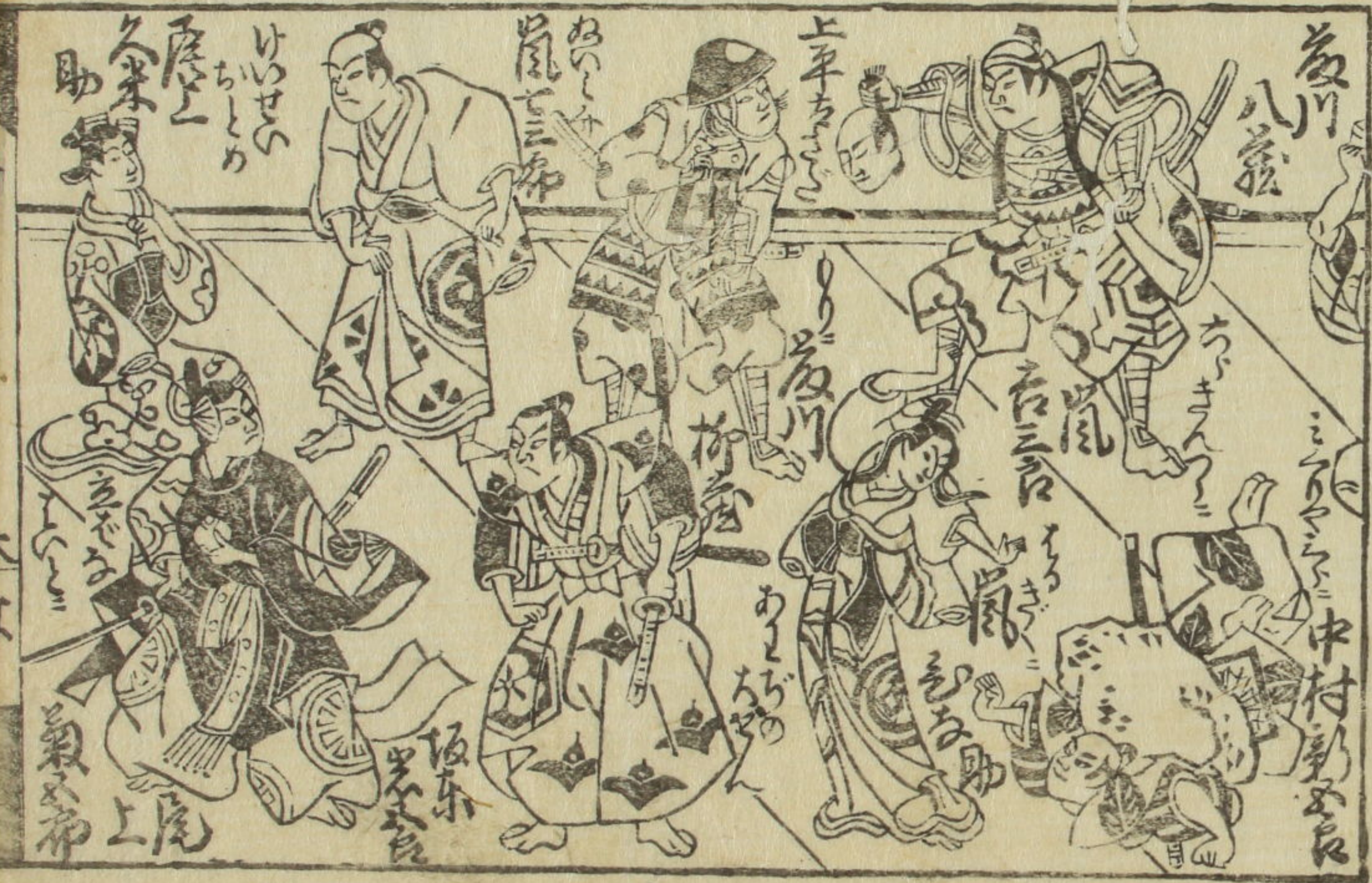
上上吉 ④ 小川吉右衛門

豊後 春のうら、う源のうら、う源の上吉、う源の
 の、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 出を、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 春の、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 田原の、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の

昔のうら、う源のうら、う源の上吉、う源の
 する、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 か、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 い、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 及び、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 者、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 大、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 ぐ、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 と、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 お、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 司、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 が、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 の、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 は、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の
 く、う源のうら、う源とく、う源の上吉、う源の



大富目屋
貞治
三本



後川
八松
中村
新五郎

源をたてしむる事とす之は後をたす事とす

上上 回 市川黄芳 小川丸

○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり

上上 ○市川丸 二十市 日左

上上 金 坂东市 柘 茂

○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり

▲ 又西之部

本上言 ○市川丸 中村秋右衛門 茂




○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり
○市川丸は三年奉命の事なり此は市川丸に在り
上上は黄芳の事なり其の事は黄芳の事なり



うらやまの國にまゐる人の地をさるゝと云ふ事か
白く世をさるゝ事か **四** 玉言方後
小舟を弄ぶ心後の対面の水はあつたか燈の
船をさるゝ心後の対面の水はあつたか燈の
て多く悲しみの心を長く抱く事か又多かり
の船をさるゝ心後の対面の水はあつたか燈の
る事か **五** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **六** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **七** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **八** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **九** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か

の事か **十一** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十二** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十三** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十四** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十五** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十六** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十七** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十八** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **十九** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か

上上吉 **神川大吉** 凡そ

凡そ **神川大吉** 凡そ
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十一** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十二** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十三** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十四** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十五** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十六** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十七** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十八** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **二十九** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か **三十** 玉言方後
心後の対面の水はあつたか燈の
と云ふ事か

る御前... 右... 左...
^〆 上上 古  尾上 今 尻左
^〆 上上  二 井 地 糸 尻 左
^〆 上上  二 井 地 糸 尻 左

この保... 上上 二 井 地 糸 尻 左
^〆 上上  二 井 地 糸 尻 左
^〆 上上  二 井 地 糸 尻 左

少少の... 根... 木...

上上 生傳 柏木 茂茂

四... 生年... 茂茂... 柏木... 中村... 古... 茂... 水... 会... 上上... 科... 甚... 小...

上上 科 甚 小... 田... 井... 金... 小...

上 小門 千葉 小門

上 市川 春吉 市川

上 甲村 龜兼 小門

上 市川 義代 市川

上 市川 龜兼 市川

娘... 部... の... 茂... 龜...

娘... 部

上 小門 松治 市川

上 市川 金秀 市川

凡... 松... 市川... 茂...

